

平成 18 年度学術ポータル担当者研修レポート

東京歯科大学

阿部潤也 受講者番号：27

黛 崇仁 受講者番号：28

1. 発表資料の状況設定

対象は図書館長、図書委員、図書館員。

図書館においてリポジトリに対する理解を深めてもらい、教授会等で館長より承認を求めてもらうことを目的とする。

2. 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

○発表内容抄録

機関リポジトリとは学内で生産される学術成果を累積的かつ永続的に収集・保存し、インターネット上で公開するしくみである。

現在、学内では研究年報（業績データベース）、学会録事（学会発表データベース）の2つのデータベースが存在し、研究者はそれぞれのデータベースに情報を登録しなければならず、研究者の負担になっているだけでなく、データの質に疑問があるものもある。

リポジトリ導入後は、学内で生産される学術情報を一元化し図書館で管理することによって、研究者自身による登録作業からの解放と登録データの質の向上を目指す。

登録された情報は Google などを通じて誰もがオープンにアクセスできるため、歯科大学としてのユニークな業績を世界に発信することにより、社会に対する説明責任の履行につながる。また、歯科大学としてのリポジトリは世界初であり、大学としてのアピールにもなる。研究者としても、論文の被引用率がアップするだけでなく業績の管理軽減にもつながる。

○研修当日の講師からの助言

特になし。

○研修発表との改訂部分

- ・「組織図」の追加（スライド 6 枚目）
- ・「コンテンツ収集にあたって」の追加（スライド 10 枚目）

3. リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

日 時：平成 18 年 8 月 31 日

- ・ 1 回目 10:30～11:20 参加人数：8 人
- ・ 2 回目 14:30～15:00 参加人数：14 人

場 所：図書館館長室

発表者：黛

プレゼンテーションは 8 月 31 日に午前と午後の 2 回に分けて開催した。

午前は図書館長をはじめとする図書委員 4 名、図書館員 4 名の計 8 名、午後は学内関係部局の担当者である教職員を中心に 8 名、図書館員が 6 名の計 14 名で開催した。

プレゼン時間は 10 分程度と設定し、残りは質疑応答および意見交換の時間とした。

4. リハプレゼンへの反響

質問とその回答

Q. SPARC からリポジトリへの経緯は？ どのような位置づけか？

A. SPARC（学術出版市場における競争の創出）

そのひとつの流れとしてのオープンアクセス（Budapest Open Access Initiative が提唱）

→オープンアクセス誌の創出

→セルフアーカイビング

- ・ 個人のウェブページ
- ・ 分野別アーカイブ
- ・ 大学・研究機関別アーカイブ

→○機関リポジトリ

リポジトリそのものが SPARC 活動の一環と言えます。

Q. 海外における歯科関係のリポジトリは？

A. OpenMED@NIC (1249 records)

<http://openmed.nic.in/>

OpenMED@NIC is an open access archive for Medical and Allied Sciences hosted by the National Informatics Centre of India. Authors can self-archive their scientific and technical documents. The archive accepts both published and unpublished documents having relevance to research in Medical and Allied

Sciences including Bio-Medical, Medical Informatics, Dental, Nursing and Pharmaceutical Sciences.

Documents include preprints (pre-refereed journal paper), postprints (refereed journal paper), conference papers, conference posters, presentations, technical reports/departmental working papers, and theses.

インドの NIC という機関で歯科関係の研究をリポジトリしているようです。

Q. 論文の公開時期と著作権の取り扱いについて。

A. 通常は図書館が PubMed、医中誌等の論文データベースをチェックし、データベースに書誌が登録された時点で先生に原稿の提出をお願いしますので、リポジトリへの登録は雑誌発行後となります。

PubMed、医中誌等に収載されない雑誌に掲載された論文についても、雑誌発行後、先生より図書館へご連絡いただきます。

もちろん、事前に原稿を送っていただいてもかまいませんが、リポジトリでの公開は雑誌発行後になります。

なお、リポジトリに登録できる原稿は査読済みの著者最終稿になります。リポジトリを認めている出版者の多くが、オリジナル原稿に限ってセルフアーカイビングを認めており、電子ジャーナルの PDF や雑誌をスキャンしたものは不可としています。

その他、感想など

- ・学内のデータが一元化されるのはよい。
- ・図書館の業務負担が増えるのでは？

5. その他（備考、今後の予定と希望 etc.）

8月には館員による学内関係部局を対象とした説明会を実施し（10月にも実施予定）、9月には図書館長より学長を含む経営陣へ概要説明を行った。

次の段階としては、学内全体の教員に機関リポジトリへの理解を深めてもらう必要があると考え、教員および大学院生が多く集まる「歯科医学教育セミナー」にて学外講師を招きリポジトリへの理解を深めてもらう予定である。

今年度中には仮運用を行い、来年度の本運用を目指している。

年次計画:平成 18 年度

- ・WG 発足(～9 月)
- ・学内周知用ウェブページ公開(～9 月)
- ・歯科医学教育セミナー開催(10 月)
- ・予算申請(～11 月)
- ・システム選定(～11 月)
- ・試験運用*(12 月～)
- ・学内説明会(～2 月)
- ・アンケート&学内周知(～2 月)

*試験的に PubMed、医中誌 Web 等から東京歯科大学発の雑誌論文の抽出を行い、論文の筆頭著者に電子ファイルの提供を求める

年次計画:平成 19 年度

- ・本運用開始(4 月～)
- ・『Bulletin of Tokyo Dental College』の J-Stage 公開分を登載
- ・『歯科学報』総索引のメタデータを移行
- ・学位論文のメタデータ移行
- ・卒業論文のメタデータ移行
- ・「研究年報サーバ」登録のメタデータを移行
- ・「研究年報」、「学会録事」にデータ送出できるようシステムをカスタマイズ

年次計画:平成 20 年度移行

- ・著作権保護期間の過ぎた、過去の『歯科学報』を登載
- ・「SCIRUS」への登録を目指す